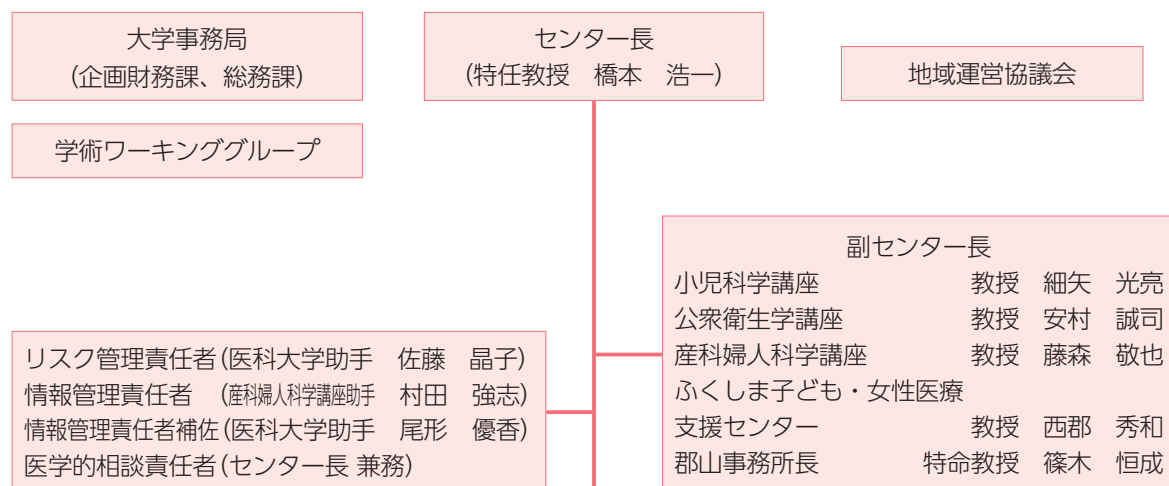


5 資料編

令和2年度 福島ユニットセンター組織図

(令和3年3月31日現在)

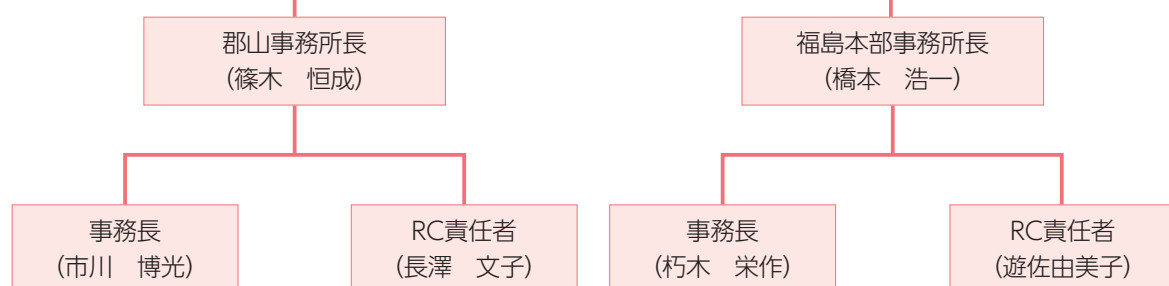
福島県立医科大学



事務局長	朽木 栄作	(兼福島本部事務所長)
事務局次長	今泉 繁	(兼会計責任者)
事務局次長	市川 博光	(兼郡山事務所事務長)
RC統括責任者	遊佐由美子	(兼福島本部事務所RC責任者)

郡山事務所

福島本部事務所



【担当地域】

県中地域、県南地域
いわき地域、会津地域

【担当地域】

県北地域、相双地域

※事務局職員数 45名(事務20名 RC25名)

- ・ 福島本部事務所 21名(事務10名 RC11名)
- ・ 郡山事務所 24名(事務10名 RC14名)

エコチル調査福島ユニットセンターの沿革

H22.1.12～15	環境省、ユニットセンターを全国に公募
H22.3	環境省、「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)基本計画」を公表 コアセンター(独立行政法人国立環境研究所)、エコチル調査を開始
H22.4.12	環境省、本県を含む全国15ユニットを選定
H22.11	福島県立医科大学において福島ユニットセンターが本格稼働 (センター長：安村誠司、執務室：公衆衛生学講座研究室)
H23.1	RC職員を配置、エコチル調査の参加者登録(リクルート)開始 調査対象地区は、福島市、南相馬市、双葉郡の計10市町村
H23.3.11～	東日本大震災と東京電力福島第1原子力発電所事故の発生
H23.4.19	調査地区拡大(伊達市、伊達郡3町)に関するコアセンターヒアリング
H23.5.9	コアセンター運営委員会、調査地区拡大について承認
H23.5	福島本部事務所を10号館5階(旧カルテ庫)に整備
H23.6.7	伊達市及び伊達郡3町(桑折町、国見町、川俣町)のリクルート開始
H24.4	調査対象地域拡大等のため職員を増員(事務8人、RC6人)
H24.5.1	福島市内に新町オフィスを開設
H24.6	本県の調査対象地域を県内全域に拡大することを決定(環境省の予算的、人的サポートの ほか国の主体的活動、各種支援業務の実施が前提)
H24.7	橋本浩一センター長の体制に移行
H24.8	副センター長兼郡山事務所長(環境省より出向)、次長兼郡山事務所事務長(郡山市OB)を配置
H24.9	郡山事務所を開所し、その支所を白河市、会津若松市、いわき市に設置
H24.9.4	10月からのエコチル調査全県化について記者発表
H24.10	調査対象地域を県内全59市町村に拡大、リクルート開始 職員を増員(平成25年度の人員体制：職員約60人、派遣職員約10人)
H25.6	事務局長兼福島本部事務所事務長(福島県OB)を配置
H25.10	次長兼会計責任者(郡山市OB、その後福島市OB)、郡山事務所RC責任者を配置
H26.3	参加者登録(リクルート)の終了
H26.10	詳細調査のリクルート開始
H26.11	詳細調査のうち訪問調査(生活環境調査)を開始
H26.12	11月末で郡山事務所の3支所を廃止、協力医療機関における常駐業務も終了 これに伴い郡山事務所の職員数を縮減(平成26年度末は本部事務所と合せ職員39人)
H27.4	詳細調査のうち医学的検査・精神神経発達検査を開始 大学事務局(企画財務課)から職員を配置
H27.10	プロジェクト教員を配置
H29.1.30	1月29日で新町オフィスを閉鎖し、現在の場所に業務を集約
H31.4	全体調査のうち学童期検査(小学校2年生対象)を開始
R2.2	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、対面調査を中止 (再開：学童期検査8月、詳細調査9月、その後も感染状況を踏まえ弾力的に対応)
R2.10	調査体制整備のため学童期検査業務委託を実施

エコチル調査協力医療機関・施設一覧

令和3年3月31日現在

1)産科協力機関(リクルート・妊娠・出産・出産後1か月調査)

エリア	協力医療機関名	所在地	担当	
県北	1 日本赤十字社 福島赤十字病院	福島市	福島本部 事務所	
	2 医療法人 明治病院	福島市		
	3 医療法人 いちかわクリニック	福島市		
	4 医療法人 ささや産婦人科	福島市		
	5 医療法人ABCクリニック 新妻産婦人科	福島市		
	6 本田クリニック産科婦人科	福島市		
	7 社会福祉法人 済生会福島総合病院	福島市		
	8 一般財団法人 大原記念財団 大原総合病院	福島市		
	9 公立大学法人 福島県立医科大学附属病院	福島市		
	10 大川レディースクリニック	福島市		
	11 菅野産婦人科医院	福島市		
	12 セイントクリニック	伊達市		
	13 二本松ウイメンズクリニック	二本松市		
	14 社会保険福島 二本松病院(旧名称)	二本松市		平成25年3月31日終了
	15 渡辺医院	二本松市		
県中	16 医療法人 慈久会 谷病院	本宮市	郡山 事務所	
	17 たなかレディースクリニック	郡山市		
	18 医療法人 岡崎産婦人科	郡山市		
	19 公益財団法人 湯浅報恩会 寿泉堂総合病院	郡山市		
	20 塚原産婦人科内科外科医院	郡山市		
	21 医療法人 慈繁会 トータルヘルスクリニック	郡山市		
	22 一般財団法人 太田総合病院 附属 太田西ノ内病院	郡山市		
	23 公益財団法人 星総合病院	郡山市		
	24 一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属 総合南東北病院	郡山市		
	25 古川産婦人科	郡山市		
	26 独立行政法人 国立病院機構 福島病院	須賀川市		
	27 小森山産婦人科医院	須賀川市		
	28 片倉医院産科婦人科	白河市		
	29 JA福島厚生連 白河厚生総合病院	白河市		
	30 福島県厚生農業協同組合連合会 塙厚生病院	東白川郡		
県南	31 岩佐医院	茨城県久慈郡	福島県民のみリクルート	
	32 舟田クリニック産科婦人科	会津若松市		
	33 一般財団法人 竹田健康財団 竹田総合病院	会津若松市		
	34 一般財団法人 温知会 会津中央病院	会津若松市		
	35 JA福島厚生連 坂下厚生総合病院	河沼郡		
会津	36 医療法人 あらき産婦人科クリニック	相馬市	福島本部 事務所	エコチル調査 リクルート中断
	37 南相馬市立総合病院	南相馬市		
	38 レディースクリニックはらまち	南相馬市		
	39 西潤マタニティクリニック	南相馬市		
	40 原町中央産婦人科(旧名称)	南相馬市		
	41 医療法人 社団 青空会 大町病院	南相馬市		
	42 双葉厚生病院	福島市飯坂		
	43 今村クリニック	双葉郡浪江町		
	44 公立相馬総合病院	相馬市		
相双	45 医療法人 栄真会 村岡産婦人科医院	いわき市	郡山 事務所	
	46 渡辺産科婦人科	いわき市		
	47 医療法人 かたよせウイメンズクリニック (旧:かたよせクリニック産科・婦人科)	いわき市		
	48 NOBUマタニティクリニック	いわき市		
	49 いわき市医療センター	いわき市		
	50 森田泌尿器科医院(旧:森田泌尿器科産婦人科医院)	いわき市		
	51 つくだ町産婦人科医院	いわき市		
	52 月川レディースクリニック	いわき市		
	53 佐藤マタニティー・クリニック	いわき市		

2) 詳細調査協力医療機関および協力施設 ■は2020年度協力医療機関

	エリア	協力医療機関・協力施設名	所在地	担当
1	県北	公立藤田総合病院	国見町	福島本部事務所
2		一般財団法人 大原記念財団 大原総合病院	福島市	
3		公立大学法人 福島県立医科大学附属病院	福島市	
4		医療法人 おひさま子供クリニック	福島市	
5		医療法人 いそめこどもクリニック	福島市	
6		医療法人 いちかわクリニック	福島市	
7		医療法人 竹内こどもクリニック	福島市	
8		医療法人 武田小児科	伊達市	
9		土川内科小児科	二本松市	
10	相双	公立相馬総合病院	相馬市	
11		医療法人 彗星会 菜のはなこどもクリニック	相馬市	
12	県中	公益財団法人 星総合病院	郡山市	郡山事務所
13		一般財団法人 太田総合病院附属 太田西ノ内病院	郡山市	
14		医療法人 いいもり子ども医院	郡山市	
15		医療法人 健生会 おおがクリニック	郡山市	
16		医療法人 おおのこどもクリニック	郡山市	
17		医療法人 かわなこどもクリニック	郡山市	
18		医療法人 仁寿会 菊池医院	郡山市	
19		医療法人 久米こどもクリニック	郡山市	
20		医療法人 喜信会 じんキッズクリニック	郡山市	
21		医療法人 永徳会 さかい小児科クリニック	郡山市	
22		医療法人 宣誠会 すみこしこどもクリニック	郡山市	
23		独立行政法人 国立病院機構 福島病院	須賀川市	
24	県南	福島県厚生農業協同組合連合会 白河厚生総合病院	白河市	
25		医療法人 健恵会 ねもとキッズクリニック	白河市	
26		医療法人 わたなべ子どもクリニック	白河市	
27	会津	一般財団法人 竹田健康財団 竹田総合病院	会津若松市	
28		福島県厚生農業協同組合連合会 坂下厚生総合病院	河沼郡	
29		医療法人 いとう子どもクリニック	会津若松市	
30	南会津	福島県立南会津病院	南会津郡	
31	いわき	いわき市医療センター	いわき市	
32		子どもの家	いわき市	
33		医療法人 森のこどもクリニック	いわき市	
34		第二子どもの家M・A・Y	いわき市	

3) 2020年度 疾患情報登録協力医療機関 ■は2020年度協力医療機関

エリア	協力医療機関名	所在地	担当
1	一般財団法人大原記念財団 大原総合病院	福島市	福島本部事務所
2	公立大学法人 福島県立医科大学附属病院	福島市	
3	医療生協わたり病院	福島市	
4	日本赤十字社 福島赤十字病院	福島市	
5	医療法人湖山荘 あずま通りクリニック	福島市	
6	医療法人慶愛会 文化通りやぎうちクリニック	福島市	
7	福島県中央児童相談所	福島市	
8	医療法人 いそめこどもクリニック	福島市	
9	すえなが内科小児科医院	福島市	
10	公立藤田総合病院	国見町	
11	こばやし子ども・内科クリニック	伊達市	
12	医療法人湖山荘 福島松ヶ丘病院	伊達市	
13	医療法人クラブトン 佐久間内科小児科医院	二本松市	
14	森小児科医院	二本松市	
15	医療法人落合会 東北病院	本宮市	
16	すぎやまこどもクリニック	相馬市	相馬市
17	公立相馬総合病院	相馬市	
18	公益財団法人金森和心会 雲雀ヶ丘病院	南相馬市	
19	ほりメンタルクリニック	南相馬市	
20	公益財団法人 星総合病院	郡山市	郡山事務所
21	福島県総合療育センター	郡山市	
22	公益財団法人金森和心会 針生ヶ丘病院	郡山市	
23	一般財団法人太田総合病院附属 太田西ノ内病院	郡山市	
24	医療法人社団稔聖会 こおりやまほっとクリニック	郡山市	
25	医療法人慈圭会 すがのクリニック	郡山市	
26	社会医療法人 あさかホスピタル	郡山市	
27	公益財団法人湯浅報恩会 寿泉堂総合病院	郡山市	
28	一般財団法人太田総合病院附属 太田熱海病院	郡山市	
29	一般財団法人脳神経疾患研究所附属 総合南東北病院	郡山市	
30	南東北医療クリニック	郡山市	
31	わんぱくさいとうこども医院	郡山市	
32	医療法人明信会 今泉西病院	郡山市	
33	公立岩瀬病院	須賀川市	
34	独立行政法人国立病院機構 福島病院	須賀川市	
35	JA福島厚生連 白河厚生総合病院	白河市	県南
36	福島県立矢吹病院	矢吹町	
37	公立大学法人福島県立医科大学 会津医療センター	会津若松市	会津
38	一般財団法人竹田健康財団 竹田総合病院	会津若松市	
39	医療法人明精会 会津西病院	会津若松市	
40	一般財団法人温知会 会津中央病院	会津若松市	
41	医療法人昨雲会 飯塚病院	喜多方市	いわき
42	公益財団法人磐城済世会 舞子浜病院	いわき市	
43	いわき市医療センター	いわき市	
44	おおはらこどもクリニック	いわき市	県外
45	公立昭和病院	東京都	
46	国立生育医療研究センター	東京都	
47	順天堂大学医学部附属 練馬病院	東京都	
48	東京北医療センター	東京都	
49	山形大学医学部附属病院	山形県	
50	茨城県立こども病院	茨城県	
51	自治医科大学附属病院	栃木県	
52	新潟県立中央病院	新潟市	
53	仙台医療センター	宮城県	
54	仙台赤十字病院	宮城県	
55	東北大学病院	宮城県	
56	宮城県立こども病院	宮城県	

エコチル調査に係る業務全般に関するPDCAサイクルにおける取組状況 (令和2年4月～令和2年10月末時点)

調査実施機関名：福島ユニットセンター

(P)計画	福島ユニットセンター指標：「参加者とのコミュニケーションに、より積極的に取組、現参加者の減少率を年1%以内にとどめる」 指標達成のため、コロナ禍において実施可能な次の項目に取り組む。 1 参加者等へのモチベーション維持及びコミュニケーション活動に対する取組 (1)環境セミナーの開催(年1回) ●毎年対面で行っていたが、コロナ禍の状況に鑑み、Webで開催する。環境問題をエコチル調査参加者が“親子で一緒に学び合う”機会とする。 (2)親子で楽しめる動画作成の取組 ●コロナ禍でも親子で楽しめる動画を作成し、参加者へ配信する。 (3)子どものエコチル調査への理解を促す取組 ●詳細調査：医学的検査時に検査の目的や調査で分かることを紙芝居を用いて説明する。 ●学童期検査：小学校低学年向け動画をホームページに掲載し、調査への理解を促す。 (4)ニュースレターの配布(年4回) ●参加者の意向を踏まえ、育児に関する小児科医師によるコラムを掲載する。 (5)謝礼(nanacoポイント)の確実な受け取りのための取組 謝礼のnanacoポイントを電子マネーに交換していないことによる、ポイントの失効を防ぎ、参加者が確実に謝礼を受領できるよう、以下の取組を行う。 ●nanacoポイントの付与時期が、調査協力後1～2か月程度かかることから、カードに付与された時期が分かるよう「お知らせメール」への登録を促す。 ●nanacoポイントが失効する可能性のある対象者リストをnanacoカード会社より受け取り、当該対象者へハガキを郵送し、電子マネーへの交換を促す。 (6)参加者への学術成果還元の取組 ●学術成果を分かりやすく記載した簡易資料を作成し、参加者への成果還元を目指す。 2 質問票回収率等を維持・向上させるための取組 (1)返送依頼時期及び返送依頼方法の変更 ●昨年度の年次評価資料や他ユニットセンターの取組を参考に回収率を分析し、返送依頼時期及び返送依頼方法の見直しを行い、質問票回収率向上を目指す。 (2)質問票封筒及び同封物の工夫 ●質問票封筒へのメッセージラベル貼付及び同封物の工夫により、質問票の開封を促す。
-------	--

	(3)乳歯調査の協力意思確認ハガキ回収率向上の取組 ●ニュースレターやホームページに記事を掲載し、乳歯調査への理解を促す。 ●コアセンターからの協力意思確認ハガキ再送後、未返送者へ返送依頼ハガキを郵送し、回答率向上を目指す。 3 アウトリーチ、その他 (1)ホームページのリニューアル ●アクセス解析の結果、新規ニュース以外の情報へのアクセス数が少ないことが分かり、スマートフォン対応となっていない現状もある。ホームページの全体的なリニューアルを行い、必要な情報を容易に得られる構成デザインとする。 (2)学術成果促進の取組 ●学内研究者の学術活動促進のため情報発信等の取組を行う。 (3)新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの策定及び状況モニタリング ●安全な対面調査の実施に向けて、ユニットセンター職員が共通認識のもと調査を実施できるよう、マニュアルを策定する。 ●全国での感染者数、県内の感染者数、県内の感染状況ステージ等の把握を行い、検査実施可否の判断、感染拡大時の速やかな対応のため情報収集を行う。 (4)詳細調査協力医療機関とのコロナ禍での実施体制構築 ●コロナ禍で中断していた詳細調査の再開に際し、協力医療機関を訪問し、安全な実施体制づくりを行う。 (5)外部委託を活用した学童期検査の実施体制構築 ●2021年度以降対象者が大幅に増加する状況において、県内各地域の希望者全員が検査に参加できるよう、外部委託を活用した安全な実施体制を構築する。検査精度の維持のため、委託業者へ各種研修を実施する。
(D)実施	1 参加者等へのモチベーション維持及びコミュニケーション活動に対する取組 (1)環境セミナーの開催(年1回) ●環境セミナーテーマ：「そうだったのか！地球温暖化のほんとうのこと？」(2021年2月開催予定) ◎Web開催とし、講義の後、一緒に学び合うことを主眼に<u>グループワーク形式</u>で参加者が意見を出し合い、環境問題について話し合うことを想定している。今回は新たに、<u>子どもと一緒に環境問題について学び合う取組</u>を含め、家族一緒に参加できるセミナーを予定している。昨年度は、「地球温暖化が進むと何が困るの？」というテーマで行った。参加者アンケートでは、<u>100%が「よかった」又は「まあまあよかった」と回答した</u>。特に昨年は県内でも洪水の被害に見まれ、より内容がタイムリーであったことから、<u>グループワーク形式での取組が盛況</u>となった。「一人一人の意見が聞けてよかった」「もっと時間があってもよかった」という感想が聞かれ、今年度も継続することとした。特に今年度はコロナの影響を考え、Web開催とした。

(2)親子で楽しめる動画作成の取組

- コロナ禍でも親子で楽しめる動画を作成し、参加者へ配信できるよう情報収集を行い、作成に向けた準備を進めている。

(3)子どものエコチル調査への理解を促す取組

- 詳細調査：医学的検査時にリサーチコーディネーターが検査の目的や調査で分かることを紙芝居を用いて一人一人に説明した。
- 学童期検査：エコチル調査の目的や福島県内の実施状況を含めた動画「福島県でのエコチル調査」を作成し、2020年11月にホームページに掲載する予定である。

(4)ニュースレターの配布(年4回)

- 年間をとおして小児科医師による「発達」に関するコラムを掲載することとした。夏号は「ひとりひとりの能力を伸ばす」、秋号は「不登校は蝶になる前の蛹」という内容で掲載した。今後、2回発行予定である。

(5)謝礼(nanacoポイント)の確実な受け取りのための取組

- 2020年9月よりニュースレターや学年質問票に資料を同封し、nanacoポイントの付与時期が分かる「お知らせメール」への登録を促した。
- 2021年1月にnanacoポイントが失効する可能性のある対象者に、電子マネーへの交換を促すハガキを郵送予定である。昨年度は、1,096件のハガキを発送した。その結果、約半数は電子マネーへの交換を促進できたことから、今年度も継続して実施する。

(6)参加者への学術成果還元の取組

- 参加者への学術成果還元に関する課題の洗い出し、他ユニットセンター等の取組を情報収集し、学術成果に関する簡易資料作成に向け取り組んでいる。

2 質問票回収率等を維持・向上させるための取組

(1)返送依頼時期及び返送依頼方法の変更

- 1回目・2回目の返送依頼時期を4週目、9週目から3週目・7週目に変更し、ショートメールにより実施した。3回目は、10週目にハガキで行っていたが、質問票の再送を行うこととした。

(2)質問票封筒及び同封物の工夫

- 質問票封筒に質問票ごとに異なるメッセージラベルを貼付し、学年質問票については、ノベルティグッズを封入し、開封を促した。

(3)乳歯調査の協力意思確認ハガキ回収率向上の取組

- ニュースレターやホームページに乳歯調査の説明や協力意思確認ハガキ返送依頼に関する記事を掲載した。
- コアセンターからの協力意思確認ハガキ再送後、2020年9月に未返送者全員へ返送依頼ハガキを郵送した。

	3 アウトリーチ、その他 (1) ホームページのリニューアル ● ホームページの課題を洗い出し、方針を決定した。2021年2月の完成を目指している。 ● それに先立ち、「学術論文」及び「学童期検査」については、<u>トップ画面からアクセスできるサイトの構築</u>を行っている。「学童期検査」については、<u>動画の掲載や予約の利便性向上に取り組んでおり、特に、ホームページ上から予約システムにアクセス出来るサイトの構築</u>を行っている。 (2) 学術成果促進の取組 ● 学内研究者の学術活動促進を目的に、毎月の<u>学内メールマガジンでの情報発信</u>、毎月の<u>学術ワーキンググループ勉強会開催</u>による研究者支援等を行った。 (3) 新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの策定及び状況モニタリング ● 附属病院の感染制御部等との連携のもとマニュアルを策定し、ユニットセンター全職員に周知した。 ● 新聞やホームページを確認し、全国での感染者数、県内の感染者数、県内の感染状況ステージ等の把握を行い、<u>検査実施可否等の判断を連日行った</u>。併せてホームページで他ユニットセンターの実施状況について確認し、状況の把握を行った。 (4) 詳細調査協力医療機関とのコロナ禍での実施体制構築 ● 詳細調査の再開に際し、<u>25協力医療機関を訪問</u>し、医療機関の意向聴取やユニットセンターでの感染症対策の説明、環境設定について検討し、安全に実施できる体制づくりを行った。 (5) 外部委託を活用した学童期検査の実施体制構築 ● 委託先業務責任者及び実施者にエコチル調査の概要、情報管理・リスク管理等に関する研修、検査業務オリエンテーション、実地研修(見学、実習)、演習等<u>3～4日に渡って行い</u>、安全な実施体制構築に向け理解が深まるよう取り組んだ。
(C) 評価	1 参加者等へのモチベーション維持及びコミュニケーション活動に対する取組 (1) 環境セミナーの開催(年1回) ● 2021年2月にWeb開催される環境セミナーにおいてアンケートを行い、特に子どもの参加を含めたグループワーク形式での実施に関する評価を行う。 (2) 親子で楽しめる動画作成の取組 ● 動画は今後作成予定である。作成後、アクセス解析を含め効果を検証する。 (3) 子どものエコチル調査への理解を促す取組 ● 詳細調査：参加者にアンケートを行い、<u>83%は紙芝居の内容を概ね理解できたと思うと回答した</u>。一方で、「まだ難しかったようだ」という回答もあった。 ● 学童期検査：2020年11月にホームページに掲載し、その後動画に関する評価を行う。

(4) ニュースレターの配布(年4回)

- 参加者より、掲載コラムが「参考になる」、「いつも興味深く読んでいます」という声が寄せられ、参加者ニーズにあった情報発信ができていると考えられる。

(5) 謝礼(nanacoポイント)の確実な受け取りのための取組

- 「お知らせメール」への登録を促す案内発送後、2020年11月にnanacoカード会社より登録者数データが得られることになっている。データ取得後、案内の効果を評価する。
- 2021年1月に電子マネーへの交換を促すハガキを郵送予定である。対象者リストが得られた後、前年度リストと紐付けて、ハガキ郵送の効果を検証する。

(6) 参加者への学術成果還元取組

- 学術成果に関する簡易資料は作成予定である。作成後、取組について評価を行う。

2 質問票回収率等を維持・向上させるための取組

(1) 返送依頼時期及び返送依頼方法の変更

- 返送依頼時期を早め、3回目の返送依頼を質問票の再送とした結果、5歳半、6歳、8歳の年齢質問票回収率(送付後6ヵ月以上)が全体的に向上した(別紙図1参照)。7歳質問票回収率は、同程度で維持された。

(2) 質問票封筒及び同封物の工夫

- 封筒や同封物の工夫による質問票回収率の効果については、開始から期間が短いため、検証できていない。しかし、しばらく提出のなかった参加者からの質問票提出や参加児から「プレゼントありがとう」と手紙が添えられた質問票が返送されるなど、開封や返送を促す一定の効果はあったものと考えられる。

(3) 乳歯調査の協力意思確認ハガキ回収率向上取組

- ニュースレターやホームページに案内を掲載した結果、電話での問い合わせが増加し、「協力しないと言っていたが協力したい」と意思を変更する参加者もいた。
- 返送依頼ハガキを郵送した結果、110件ほどの問い合わせがあり、協力意思確認ハガキの返送も含め意思表示件数が400件以上増加し、回収率向上に繋がった。

3 アウトリーチ、その他

(1) ホームページのリニューアル

- 2021年2月完成以降、アクセス解析を行い、リニューアルの効果について検討する。
- 先行して改修を行った、「学術論文」については、ページ閲覧数の微増が見られ、より学術成果内容へのアクセスを高めたとも考えられる。「学童期検査」については、2020年11月よりトップ画面より閲覧できるようになるため、今後評価を行う。

(2) 学術成果促進取組

- 学内メールマガジンで情報発信を行った結果、今年度新たに2部門から研究参加希望があった。また、学術ワーキンググループ勉強会開催により、研究発表に各専門の教授等

	による助言を受ける機会が得られ、研究のブラッシュアップに繋がった。そのことにより、<u>研究活動も活発化し、上半期で昨年度を上回る論文発表件数に繋がったと思われる。</u> (3)新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの策定及び状況モニタリング ●マニュアル作成の過程で感染症専門スタッフからの助言を受け、多くの検討の機会が持たれたことから、<u>状況発生時の対応についてより具体性を持ったマニュアルの作成が</u>でき、全職員の共通認識も深まった。また、マニュアルに基づく対面調査の実施にあたっては、参加者アンケートの結果、<u>感染症対策について99.8%が安心できた</u>と回答した。 ●新聞やホームページ等を確認し、情報収集に努めることにより、<u>冷静に状況を判断し、検査対応が</u>できた。多くの情報収集が必要となるが、職員で役割を分担し行うことで、より<u>確実な情報の蓄積が</u>できた。 (4)詳細調査協力医療機関とのコロナ禍での実施体制構築 ●協力医療機関に理解を得て、<u>検査再開が</u>できた。医療機関によっては、患者受け入れ態勢等の理由により、協力の難しい医療機関もあった。医療機関の要望にできる限り答えるよう取り組んだが、その一方、医療機関で検査を受けるまでの一定期間は<u>県外移動の制限等、参加者に理解を得ながら実施している現状がある。</u> (5)外部委託を活用した学童期検査の実施体制構築 ●各種研修及び繰り返しの話し合いが持たれ、エコチル調査スタッフと委託業者スタッフによる学童期検査も開始した。研修後も、委託業者スタッフの理解度を高め、維持するため個別に測定機器を経験する追加研修の機会を設けた。学童期検査後の参加者アンケートの結果、<u>スタッフの対応や説明について、99.6%が分かりやすかった</u>と回答し、研修の効果が確認された。業務が多岐にわたる中で、委託業者スタッフ間の理解度やスキルの差もあり、<u>共通認識のための取組や精度管理が重要な状況であった。</u> 【総合評価：指標に対する評価】 ユニットセンター全体として、上記の取組を行った結果、<u>年間の現参加者の減少率は0.7%と目標を達成することができた</u>(別紙表1参照)。
(A)改善	1 参加者等へのモチベーション維持及びコミュニケーション活動に対する取組 各調査業務の拡大及び新型コロナウイルスに伴い、多くのイベント開催は難しくなっている。今後実施予定の取組も評価し、参加者ニーズと提供内容とが合致するイベントを検討し、動画の作成やWeb開催など様々な方法での情報発信やコミュニケーションのあり方を探っていく。 2 質問票回収率等を維持・向上させるための取組 質問票回収率の維持・向上の取組については、今後も定期的に評価し、PDCAによる取組を継続する。乳歯調査については、対面調査等で協力意思確認の取組を行い、協力率向上に努める。

3 アウトリーチ、その他

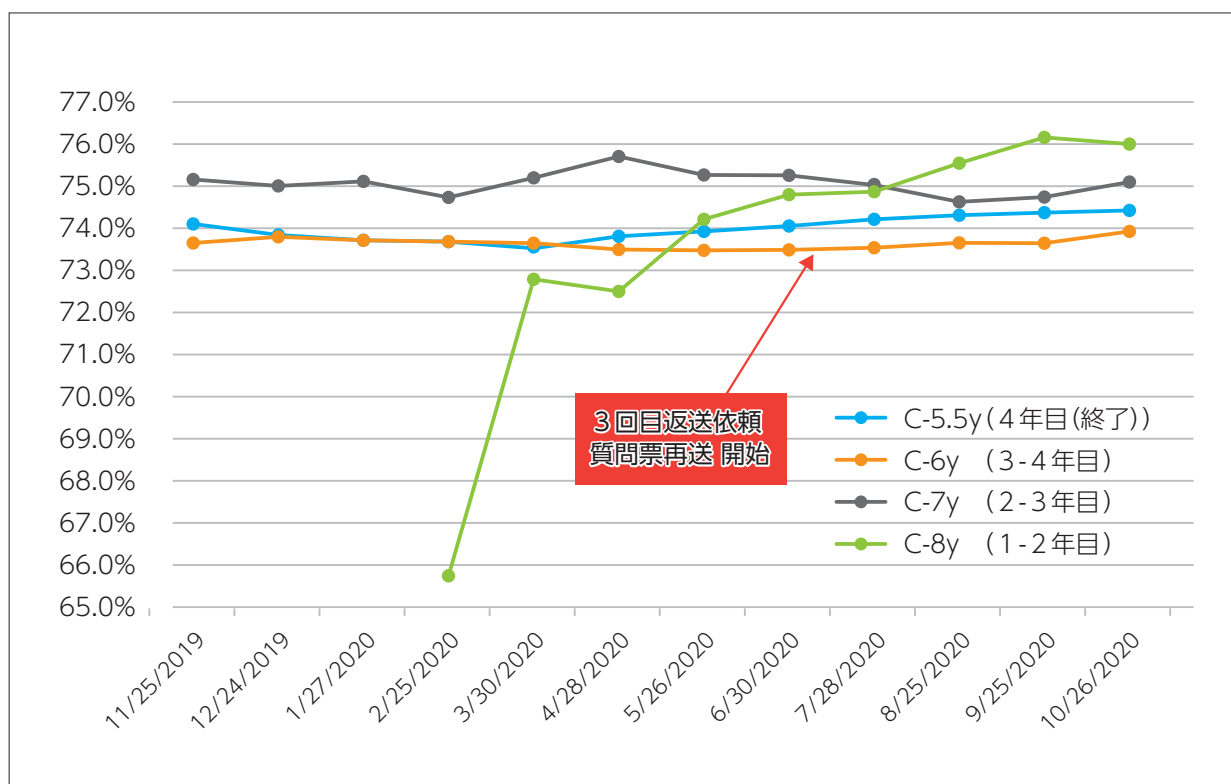
ホームページリニューアルの効果は、今後評価し検討を行っていく。学術活動については、取組を継続し、学術成果促進・社会還元に努める。

調査にあたっては、新型コロナウイルスの状況モニタリングにより判断し、安全な検査実施に向け取り組んでいく。特に、詳細調査については、協力医療機関との連携を密にし、参加者には感染症対策への理解を得ながら取り組んでいく。

学童期検査については、外部委託を活用し、実施体制を構築した。調査の実施においては、引き続き調査への共通理解及びリスク管理・情報管理に関する共通認識が重要である。課題への対策を明確にし、検査の精度管理を行いながら、より円滑で安全な実施体制構築に向け、取り組んでいく。

図1 年齢質問票回収率(送付後6ヵ月以上)

(別紙)



◎ 3回目返送依頼を質問票再送とした後、質問票回収率は5歳半が0.4ポイント、6歳が0.5ポイント、8歳が1.2ポイント上昇した。7歳は、同程度に維持された。

表1 現参加率の推移(2019/10月末時点・2020/10月末時点)

	出生数※1	転出者数 (延べ人数)	転入者数 (延べ人数)	転出入調整 出生数※2	打ち切り数	現 参加者数	現参加率(転出入調整) 現参加者数÷転出入調整 出生数×100
R1.10.28時点	12,866	154	122	12,834	591	12,243	95.4%
R2.10.26時点	12,866	170	131	12,827	679	12,148	94.7%

※1 出生数：2018.11 出生数確定データクリーニングにて1名減

※2 転出入調整出生数：出生数－転出者数＋転入者数

◎前年比の現参加率減少が、0.7%であった。現参加率減少が年1.0%以内という目標を達成できた。

ニューズレターの発行

2020年冬号(令和2年12月発行)

エコチル★ふくしま通信

2020年 冬号

エコチル調査 10年目を迎え、新たな段階へ

エコチル調査は2011(平成23)年に開始され、はや10年になります。福島ユニバーシティでも1月からリポートが開始されましたが、3月11日(金)には、東日本大震災が発生し、避難のスタートとなりました。10年経過したことに、本質的な意味がある訳ではないと思いますが、さまざまな出来事について、「10周年記念」と銘打った事業等が開催されることを思うと、人は10年という時の流れに特別な意味を感じていただろうと思います。

東日本大震災以降、私自身は過去を振り返るのではなく、常に前を向いていくことが大事であると常に感じて今日に至っています。ただ、エコチル調査開始後10年という節目を迎え、10年を振り返ることの意味があると思っています。福島ユニバーシティでの10年は、常に、東京電力福島第

一原子力発電所事故後の学びと関連しています。原発事故は言うまでもなく放射線という物理的原因の身体影響への問題と捉え、環境化学物質の身体影響を中心原因(後継課題)としているエコチル調査とは別個のものと思えますが、「子どもの健康をいかに守るか」という点では全く同じであると思えます。

現在まで、福島県から委託されて福島県立医科大学が実施している「県民健康調査」検討委員会からは、「現時点では、放射線による影響があるとは思えない」という評価が出ていますが、今後より正確な評価が必要であると考えます。福島ユニバーシティでは、全国、福島でのデータを解析し、さまざまな研究成果が出てきています。今後より解析を進め、その成果をホームページにもアップ予定です。これらの成果を生かし、当初の目標である「福島で安心して暮ら、育てられる環境を作っていく」に役立てていきたいと考えています。引き続き、関係の皆様、機関にはご支援、ご協力をお願いいたします。

最後に、参加者の皆様とご家族のご健康を祈念しております。

今後のイベントスケジュール

エコチルふくしま環境セミナー
●2021年2月7日(日)
時間/14:00~15:30
決断/そうだったのが、地球温暖化のほんとうのこと?
講師/国立環境研究所 横倉 健太先生

今年度の環境セミナーは、新しい試みとしてwebで開催します

今年もカレンダーでさがりました!!
予定を書きこみやすく、成長の記録も残せます!!
最終ページには調査のお知らせとお祝い、エコチルふくしまnanacoカードについても載っています。
ぜひご利用ください。

エコチルふくしまホームページに
学習期検査のご案内資料、検査カレンダー(令和3年1月ごろ掲載予定)などを掲載しています。WEB予約サイトへも、アクセスできます。また、お子さんへ説明の際に、ご利用いただける動画なども掲載しました。
ぜひご覧ください

エコチルふくしまホームページに
学習期検査のご案内資料、検査カレンダー(令和3年1月ごろ掲載予定)などを掲載しています。WEB予約サイトへも、アクセスできます。また、お子さんへ説明の際に、ご利用いただける動画なども掲載しました。
ぜひご覧ください

2020年10月で特集しました
2冊送ってもらっちゃおう!!
プレゼントキャンペーン実施中!!
についてお問合せがありました。
Q&Aにまとめましたのでご覧ください。

プレゼントキャンペーンの申込書はいつ同封されるのですか?
A 8歳の誕生日をお送りするときに、同封しています。
C 小学1年生の質問票が届いたのですが、8歳の質問票はまだ届いていません。いつ届きますか?
A 8歳の誕生日ごろに届きます。

スタッフ一同、質問票のご返送をお待ちしています。ご不明な点等ありましたら、各事務局へお問い合わせください。

エコチル調査に関する質問・疑問、本誌へのご感想やご要望などでもお気軽にお寄せください。お問い合わせに関する情報は、ホームページに掲載しているプライバシーポリシーに基づいて取り扱います。

エコチル★ふくしま通信

2020年 冬号

エコチル調査 10年目を迎え、新たな段階へ

エコチル調査は2011(平成23)年に開始され、はや10年になります。福島ユニバーシティでも1月からリポートが開始されましたが、3月11日(金)には、東日本大震災が発生し、避難のスタートとなりました。10年経過したことに、本質的な意味がある訳ではないと思いますが、さまざまな出来事について、「10周年記念」と銘打った事業等が開催されることを思うと、人は10年という時の流れに特別な意味を感じていただろうと思います。

東日本大震災以降、私自身は過去を振り返るのではなく、常に前を向いていくことが大事であると常に感じて今日に至っています。ただ、エコチル調査開始後10年という節目を迎え、10年を振り返ることの意味があると思っています。福島ユニバーシティでの10年は、常に、東京電力福島第

一原子力発電所事故後の学びと関連しています。原発事故は言うまでもなく放射線という物理的原因の身体影響への問題と捉え、環境化学物質の身体影響を中心原因(後継課題)としているエコチル調査とは別個のものと思えますが、「子どもの健康をいかに守るか」という点では全く同じであると思えます。

現在まで、福島県から委託されて福島県立医科大学が実施している「県民健康調査」検討委員会からは、「現時点では、放射線による影響があるとは思えない」という評価が出ていますが、今後より正確な評価が必要であると考えます。福島ユニバーシティでは、全国、福島でのデータを解析し、さまざまな研究成果が出てきています。今後より解析を進め、その成果をホームページにもアップ予定です。これらの成果を生かし、当初の目標である「福島で安心して暮ら、育てられる環境を作っていく」に役立てていきたいと考えています。引き続き、関係の皆様、機関にはご支援、ご協力をお願いいたします。

最後に、参加者の皆様とご家族のご健康を祈念しております。

今後のイベントスケジュール

エコチルふくしま環境セミナー
●2021年2月7日(日)
時間/14:00~15:30
決断/そうだったのが、地球温暖化のほんとうのこと?
講師/国立環境研究所 横倉 健太先生

今年度の環境セミナーは、新しい試みとしてwebで開催します

今年もカレンダーでさがりました!!
予定を書きこみやすく、成長の記録も残せます!!
最終ページには調査のお知らせとお祝い、エコチルふくしまnanacoカードについても載っています。
ぜひご利用ください。

エコチルふくしまホームページに
学習期検査のご案内資料、検査カレンダー(令和3年1月ごろ掲載予定)などを掲載しています。WEB予約サイトへも、アクセスできます。また、お子さんへ説明の際に、ご利用いただける動画なども掲載しました。
ぜひご覧ください

エコチルふくしまホームページに
学習期検査のご案内資料、検査カレンダー(令和3年1月ごろ掲載予定)などを掲載しています。WEB予約サイトへも、アクセスできます。また、お子さんへ説明の際に、ご利用いただける動画なども掲載しました。
ぜひご覧ください

2020年10月で特集しました
2冊送ってもらっちゃおう!!
プレゼントキャンペーン実施中!!
についてお問合せがありました。
Q&Aにまとめましたのでご覧ください。

プレゼントキャンペーンの申込書はいつ同封されるのですか?
A 8歳の誕生日をお送りするときに、同封しています。
C 小学1年生の質問票が届いたのですが、8歳の質問票はまだ届いていません。いつ届きますか?
A 8歳の誕生日ごろに届きます。

スタッフ一同、質問票のご返送をお待ちしています。ご不明な点等ありましたら、各事務局へお問い合わせください。

エコチル調査に関する質問・疑問、本誌へのご感想やご要望などでもお気軽にお寄せください。お問い合わせに関する情報は、ホームページに掲載しているプライバシーポリシーに基づいて取り扱います。

[illegible]

食事調査結果報告が始まりました

8歳児訪問時には、お子さんの普段の食事についてお尋ねする「**食事質問票**」が送られています。すべての質問にお答えいただけますと、お子さんが1日にどのくらいの栄養素を摂取しているかが、明らかになります。

質問項目にお答えいただくこと

「**お子さんの食事・栄養の特徴**」を取りまとめた「**結果報告書**」をお届けします！

結果報告書には、お子さんの食事・栄養に関する情報が盛り込まれています。

- ① 食事・栄養に関する質問票の回答内容
- ② 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量
- ③ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安
- ④ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安
- ⑤ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安
- ⑥ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安
- ⑦ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安
- ⑧ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安
- ⑨ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安
- ⑩ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安

主要栄養素（カルシウム・鉄・ビタミンC・食塩・脂肪）の摂取状況が一目でわかるような信号の色で表示されます。

① 食事・栄養に関する質問票の回答内容

② 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量

③ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安

④ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安

⑤ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安

⑥ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安

⑦ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安

⑧ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安

⑨ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安

⑩ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安

⑪ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安

⑫ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安

⑬ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安

⑭ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安

⑮ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安

⑯ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安

⑰ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安

⑱ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安

⑲ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安

⑳ 食事・栄養に関する質問票の回答内容から算出された栄養素の摂取量の目安

おしえて先生！ あんなこと、こんなこと

今年度もリレー形式で大人の先生から子どもへの発達についてお話しいただきます。

ひとりひとりの能力を伸ばす

発達障害医療大使
ふくしま子ども・女性発達支援センター
館長 横山 浩二 先生

① どうして発達障害者の早期発見が大切なのか、ですか。

② 子どもの行動異常の原因は、大きく分けて、本人の遺伝と環境要因のふたつに分けられます。本人の遺伝として、程度が高いのが発達障害です。文部科学省の調査によると、通常学級に在籍の子どもの6.5%、特別支援学級・特別支援学校を就く子どもと、およそ1:10割合で特別な支援を必要としています。「発達障害者は生まれたついでに問題なので修正する」という考えは、よくある誤解です。発達障害はよく研究され、対処法も確立しつつありますが、発達障害による行動異常の原因を探るのも大変で、修正も容易ではありません。

発達障害による行動異常を放置しておく、悪影響には

ご注意ください

① カードを紛失したのですが、どうすればいいのでしょうか？

② カード 紛失・盗難の場合、預金・残高ポイントはどうなりますか？

③ エコチルふくしまnanacoカードの預金・残高ポイントは、新しいカードには引き継ぎ（移行）出来ません。

④ 通常のnanacoカードとは紛失・盗難時のお手続きが異なりますので、十分にご注意ください。

エコチルふくしまnanacoカードは、お子さんが13歳になるまで使用しますので、大切に保管・ご利用ください。